

かがわ里海大学 2022 スキルアップ講座「海ごみリーダー養成講座」

日 時：令和4年（2022年）11月5日（土）9:00～14:30

場 所：高松市男木コミュニティセンター（室内講習）、大井東海岸（現地講習）

講 師：一般社団法人 JEAN 小島 あずさ 氏

受講者数：24名

11月5日土曜日、高松市男木島で「海ごみリーダー養成講座」を開催しました。

この講座は、世界的な問題となっている「海ごみ」の発生抑制活動に携わるリーダーを増やし、この問題解決のための普及啓発活動を推進することを目的としています。

午前の講座は、講師から海ごみに関する基礎知識として海洋ごみの現状や問題点についてや、海岸に漂着しているごみの量を簡易に調べる方法の「水辺の散乱ゴミ指標評価手法」とごみの種類を調べる「International Coastal Cleanup=ICC（国際海岸クリーンアップ）」の2つの調査の目的と、その実施方法について説明がありました。

我々の身近なところから発生しているごみや、国内の話だけでなく、世界の海ごみ問題の例やプラスチック、マイクロプラスチックの問題点、海ごみイベント開催時の留意点などについて多くの写真を用いて説明がありました。



オリエンテーション



講座の様子



水辺の散乱ゴミ評価手法の説明



質問、意見交換

午後の講座は、海岸へ行き「水辺の散乱ゴミ指標評価手法」、「ICC（国際海岸クリーンアップ）」の2つの方法で調査をする現地実習を行いました。

ICC 手法の調査ごみ拾いは世界共通の調査方法であり、回収した漂着ごみを 45 品目に分類してその個数を数えます。ごみの個数を自ら調べることで他地域や他国との違いや経年変化を知ることができ、海ごみの実態を知ることにつながります。

海ごみ問題は拾うだけでは解決することができない問題であり、海ごみの発生源を断つ必要があることから、海ごみの実態を把握し、考えるきっかけとなる ICC が優れていると考えられていることなどが講師から説明がありました。

調査結果で個数が多かったごみの種類を3つ挙げると、①発泡スチロール破片 242 個、②硬質プラスチック破片 129 個、③カキ養殖用まめ管 81 個となりました。少し見ただけでは分からなかったけれど、実際に調べてみると、多くのごみや色々な種類のプラスチックごみがあることに参加者は気付いているようでした。

受講生からは「ごみがどこから来たのか考えるようになった」「他の参加者と一緒に調査できて良いと思いました」などの感想がありました。

受講生には、既にビーチクリーンアップを主催している団体の方々、今後海ごみを減らすための活動を行いたいと考えている人の参加も多く、海ごみリーダーとしての活動や活躍が期待されます。



ICC の手法説明



海ごみを回収する



拾ったごみの種類を調べる



集合写真